令和５年９月２１日

秩父市議会議長　堀　口　義　正　様

議会運営委員長　小　櫃　市　郎

議 会 運 営 委 員 会 行 政 視 察 報 告 書

１　期　日　　令和５年８月８日（火）～９日（水）

２　視察先　　青森県八戸市議会

３　参加者

委員長	小櫃市郎	副委員長	宮川浩司
委員	小松穂波	委員	清野和彦
委員	笠原宏平	委員	大久保進
委員	髙野宏	委員	浅海忠
副議長	赤岩秀文		

４　視察目的

青森県八戸市議会「議会運営について」「八戸ポータルミュージアム」

○　市の概要

八戸市は、昭和４年に市制施行され、平成 29 年１月に中核市に移行した。市域面積は 305.56 ㎢、人口は本年４月１日時点で 219 千人である。令和５年度一般会計予算 950 億円、特別会計予算（12 会計）531 億円の中核市である。

議員定数は 28 人で常任委員会は、総務、経済、民生環境、建設企業の４委員会に７人ずつの構成であり、議会運営委員会は 12 人で構成されている。また、特別委員会は、広域連携推進、観光文化スポーツ推進、まちづくり推進、デジタル化推進の４つが設置されており、７人ずつで構成されている。

議会基本条例の規定に基づき平成 26 年度から議会報告会を開催しており、令和３年度からは、従来の議会報告会のやり方を見直し、市内各地域へ議員が出向き、地域の皆様と意見交換する「議会ふれあいミーティング」へ変更し開催している。

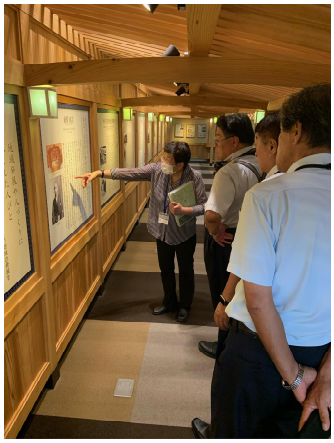
○　事業の概要

・議会運営について

八戸市議会の議員定数は 28 人。開会から閉会までの流れでは、第 5 日から 7 日にかけて一般質問が行われ、3 月は代表質問と個人質問、6・9・12 月は個人質問のみが行われる。答弁を含む質問時間は、代表質問が 90 分、個人質問は 60 分、質問回数は 3 回までとなっている。3 月定例会に予算特別委員会、9 月定例会で決算特別委員会を開催。質疑方法は通告制となっている。議会基本条例の検証について、平成 30 年に議会改革推進委員会に小委員会を設置し、検証方法について検討。5 段階の評価基準を設け、当時の議員 32 人が評価者となり検証を実施。検証結果については、中間地である 3 点を上回る 3.91 となった。検証後は、議会改革推進委員会で取組を協議することになっている。議会 ICT については、平成 25 年より検討を始め、平成 27 年 9 月 1 日よりタブレット端末及び会議システムを本格運用している。効果については、資料の供覧や視察先等への携帯ができるなど議員の政務調査活動等の充実が図られたほか、情報伝達の迅速化、事務効率の改善、紙資料の削減などが図られている。

平成 26 年から始まった議会報告会を令和 3 年度から開催方法を見直し、「議会ふれあいミーティング」に名称を変え実施。内容は、議員が地域に出向き、グループワーク方式で市民と意見交換を行うスタイルとなっている。開催は年 1 回、11 月の土曜日または日曜日に市内 2 か所で同日開催とし、開催地区については連合町内会または公民館区単位を基本に公募し、2 地区を選定している。

・八戸ポータルミュージアムについて



八戸には人、もの、食、文化などの財産がたくさんあり、八戸ポータルミュージアム「はっち」は市内の観光スポットに誘うポータル（玄関口）としての役割を果たすミュージアムである。新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図りながら、中心市街地と八戸市全体の活性化を図るため、平成 23 年 2 月にオープン。八戸の魅力を凝縮して展示する八戸観光の入口であると同時に、シアターやギャラリーはアーティストや市民の活動の場として活用されており、館内にはカフェやショップも入居し、さまざまな楽しみ方のできる施設である。

視察を終えて（各委員の所感）

【　議会運営委員会行政視察　　小 櫃 市 郎　】

八戸市議会で、議会運営と議会ふれあいミーティングについて説明を受けたが、議会運営について、一般質問の実施方法では、一問一答方式または一括質問・一括答弁方式を通告時に選択できるとのこと。また、一般質問の質問回数も３回までとなっていた。秩父市議会では、一般質問については質問回数を制限していないため、より活発な議論ができると感じた。

また、議会基本条例の検証については、八戸市議会の議会改革推進委員会が中心となり、平成30年に32人の議員全員で項目の検証を行ったものである。秩父市議会基本条例は、現在、議会改革特別委員会において見直しが図られているところであるが、未だ検証は行っていないため、その手法については今後の検証を行う上での参考にしたい。議会のＩＣＴ化については、秩父市議会でも既にタブレットが導入され、定例会、委員会等においても活用されており、八戸市議会と同様の運用状況にあると考える。

議会ふれあいミーティングについては、報告会形式からグループワーク形式に開催方法を見直したとのことであった。議会報告会については、秩父市議会でも広報広聴委員会で検討しており、今後の参考にしたい。

２日目に視察を行った八戸ポータルミュージアム「はっち」については、賑わい創出や観光と地域文化の振興、市民活動の拠点としてとても有効な施設であり、多くの市民、観光客が集い活用されている状況を視察することができた。施設老朽化に伴い、維持管理に掛かる費用の増加が懸念されるが、その点も含め、今後の当市の施設運営の参考にしたい。

【　議会運営・議会報告会の視察を終えて　　宮 川 浩 司　】

秩父市と比較して、八戸市は、議員数28名、人口、行財政、ともに大規模であり、このような自治体がどのように議会を運営しているのか、大変興味深く視察させていただいた。

議会運営に関しては、決算特別委員会に加えて予算特別委員会が設置され、予算特別委員会は３月定例会、決算特別委員会は９月定例会においてそれぞれ審議が行われている。殊に予算特別委員会は、正副議長を除いた全議員で構成され、５日間程度の時間を割いているので、市がこの委員会を重視している姿勢が伺える。予算編成の目的が、住民から徴収した税金を住民のために適切に運用・管理するためのものであることからすれば、予算について精緻な議論を行う機会が設けられている点は大いに見習うべきだと考える。議会基本条例の検証については、評価シートを用いて各項目の評価を行い検証の数値化を実現していた。検証作業に能動的に取組むことで、質問・質疑だけの場から議員間の自由闊達な議論・討議を重視する議会への改革を目指しており、今後の参考にしていきたい。議会ＩＣＴについては、やはり通信環境やシステムのトラブル対策が課題とされていた。

議会報告会の運用では、令和３年度より議会報告会を「議会ふれあいミーティング」という名称に変更して開催され、議員が地域に出向き、グループワーク方式で市民との意見交換を行う方法で実施されている。人数の伸び悩みや建設的な議論がなされないなどを理由として見直しを行ったそうだが、これは秩父市にも大いに当てはまる部分である。運用方法も含めて、議会報告会の新たな知見が得られた。

視察を終えて（各委員の所感）

【　八戸市を視察して　　小 松 穂 波　】

昨今、タブレット端末導入などＩＣＴ化を進めている議会も多く、秩父市議会も導入しているが、八戸市は平成27年度にタブレット端末及び会議システムの本格運用を開始している先進議会である。導入のメリットとしていた、印刷経費などの「コスト削減」や「事務効率化」「省力化」を概ね果たしている。

八戸市議会では、３月定例会時に「予算特別委員会」が設置され、新年度予算及び新年度関連議案の審査を正副議長を除く全議員が委員となり行っている。この予算特別委員会では担当課長が議案の説明や答弁を行っており、議案などを詳しく審議できるため議員の理解も深まり、当局との意思疎通も図られるメリットがある。加えて９月定例会時に開催される「決算特別委員会」は議員の半数が委員となり「予算特別委員会」同様に審査されている。

秩父市においては「予算特別委員会」の設置はなく、「決算審査特別委員会」は２年に一度、約半数の議員が委員となり議会閉会中に議案審査を行っている。

また、請願・陳情の取扱いについても八戸市議会では、主旨説明を希望する請願・陳情者が多く、請願・陳情の付託された委員会の審査前に主旨説明が実施されている。秩父市においても、秩父市議会基本条例第11条（市民参画）第２項で「議会は、請願又は陳情を審議するに当たり、必要に応じて請願者又は陳情者の意見を聴くよう努めるものとする。」とされている。その他にも参考となる取組みがあり、今回の視察の内容を踏まえ、秩父市議会が更に開かれた議会となるよう、今後の議会運営の参考としたい。

【　八戸市議会への行政視察からの学び　　清 野 和 彦　】

八戸市議会への行政視察を通じて、今後の秩父市議会の議会運営において検討することが望ましいと考えた点を三つ挙げたい。

まず、八戸市議会においては、予算特別委員会が設置されている点である。特別委員会は３月定例会にて、正副議長を除く全議員が委員となり実施されており、秩父市議会でも全議員が議案審議に関与できる状況は同様であるが、委員会は内部審査という性格もあり、課長級など実務担当者が答弁者となることで、より詳しい審議ができる利点がある。特別委員会の設置により、市当局側の負担が大きくなる可能性はあるが、議会改革の第一義的な目的である議会の権能の強化に向けて積極的に検討することが望ましいと考える。

次に、議会基本条例の検証について、八戸市議会では条例の全23条40項目について、１項目ずつの５段階評価と自由記述を、議員個人を評価者として実施している点である。秩父市議会でも、議会基本条例の検証は行われているが、このような手法がより良い検証に寄与するか検討に値すると考える。

最後に、議会ふれあいミーティング（議会報告会）について、議員と市民による対面形式からグループワーク形式へ変更するとともに、開催を連合町会、公民館区単位を基本とした公募制とするなど、より主体的に市民が参画する形に見直しを行った点である。秩父市議会でも議会報告会については、参加者の伸び悩みなどの課題があり、必要な見直しを行うことが望ましく、八戸市議会の取組は、大いに参考になるものであった。

視察を終えて（各委員の所感）

【　青森県八戸市視察　　笠 原 宏 平　】

人口約22万人の八戸市では、令和５年４月より議員定数が32人から28人に変更になり、常任委員会（4）、議会運営委員会、特別委員会（4）、予算特別委員会(3月定例会設置）、決算特別委員会(9月定例会設置）、議員全員協議会、常任委員会協議会と、時節に合った活動委員会を設置して活発に対応しているように感じた。予算・決算の審査も、会期日数を増やし、予算特別委員会は正副議長除く全議員出席、決算特別委員会は正副議長と議員選出監査委員を除く半数の議員の出席で行われており、これは参考にしても良いと思う。また議会事務局は、総務グループ・議事調査グループに分かれており、事務局長、次長を含み16人で構成されていた（１人不足の現在は15人）。やはり３倍の予算の違いがあり議会の規模も大きい物であった。また市民に対する議会報告会の様子もお聞きした。平成26年度から始めた議会報告会も、開催方法を議員が地域に出向きグループワーク方式という市民と膝を交えた形に令和３年度から見直しを行い、多数の市民が参加するようになったとのことである。

八戸市内の視察も行った。中心市街地の歩行者通行量が20年間で３分の１に減ってしまい賑わいを失いつつある中、商業機能の低下が進み空き店舗や空き地が目立ち始めたため、八戸市中心市街地活性化基本計画を平成20年７月に策定し、新たな交流と創造の拠点施設として八戸ポータルミュージアム「はっち」を開設し、八戸の玄関口としての観光展示や市民活動のサポートを行うことで、減少の歯止めになったとのことである。全体説明の後、ボランティアに施設内を案内していただき説明を受け、多くの参考点を学ぶことができた。

【　八戸市議会を視察して　　大 久 保　進　】

八戸市議会は開会５～７日に一般質問を行い、３月議会では代表質問と個人質問が行われており６・９・12月議会では個人質問のみが行われている。代表質問は答弁含めて90分の持ち時間、個人質問は答弁含めて60分の持ち時間で行われている。３月議会の予算特別委員会では正副議長を除く全議員で行い、９月議会の決算特別委員会は正副議長及び議会選出監査委員を除く半数の議員で毎年行われている。他にも４つの特別委員会が設置されており、毎回の議会で行われている。請願・陳情の取り扱いについては秩父市とほぼ同様である。

議会基本条例の検証について平成30年に議会改革推進委員会で、今後の検討事項について各会派から提案があった①議会基本条例の検証、②議会改革ランキングの検証、③議長選挙における所信表明の実施、④広報広聴委員会の設置、⑤ SNS での情報発信、⑥災害時における議会の行動指針等の作成、⑦会議録検索システムの改善、⑧議会報告会のあり方の８つの項目から、今年度優先的に取り組む事項として①②⑤⑦を機動的に進めていくため５名の小委員会を設置し検討した。

議会報告会については平成26年度から開催。令和３年度から開催方法を見直し「議会ふれあいミーティング」という名称で開催している。議員が地域に出向き、グループワーク方式で市民と意見交換を行っている。年１回11月の土曜日または日曜日に開催。24の連合町内会より公募にて市内２地域で同日開催である。他にも参加対象者や開催内容などの説明があったが、秩父市においても十分参考にできる内容であったと思われる。

視察を終えて（各委員の所感）

【　議会運営委員会行政視察報告　　髙 野　　宏　】

８月８～９日に青森県八戸市議会と八戸ポータルミュージアムを訪問し、議会運営及び議会のＩＣＴ化について議会の現状について視察研修を行った。

８日は、八戸市議会を視察した。今回は、議会運営について、①本会議および委員会の運営について、②議会基本条例の検証について、③議会ふれあいミーティングについて、④議会ＩＣＴについて研修を行った。定例会は年４回で３月定例会は予算特別委員会が５日間加わり、９月定例会は決算特別委員会が３日加わる。４常任委員会と４特別委員会は各定例会で開催されている。決算特別委員会と予算特別委員会はほぼ全員の議員が所属している。一般質問は３月定例会で代表質問と個人質問が行われ、他の定例会は個人質問のみである。

議会のＩＣＴについては、本会議の議会放映はＣＡＴＶ放映が平成16年から、インターネット中継は平成19年より行われている。また平成27年よりタブレット端末および会議システムが本格運用開始され、定例会資料の配付等、議会内のペーパーレス化の促進を行っている。

平成26年度から議会報告会を開催していたが、令和３年度からは、開催方法を見直して「議会ふれあいミーティング」という名称で開催され、議員が地域に出向き、グループワーク方式で市民と意見交換しているとのことである。９日は、街中の活性化の目的で建設された多目的施設「八戸ポータルミュージアム」を見学した、大変賑わっており、町中にあり市民の憩いの場であり、地域の展示物や飲食店やお土産もあり観光客も大勢訪れていた。

２日間の短い時間であったが、実りある視察研修であった。

【　八戸市議会の議会運営　　浅 海　　忠　】

八戸市議会は議員定数28人で構成され、議会運営委員会（定数12人）と４つの常任委員会（定数７人）が条例で定められている。その他、「特別委員会は、必要な場合に、議会の議決で設置し、委員定数も議会の議決で定める。委員の任期は、審査が終了するまでであるが、慣例により、常任委員会の組織替えにあわせ、２年ごとに設置の見直し及び組織替えを行っている。」との説明があった。議員はそれぞれ、常任委員会と特別委員会に所属している。特別委員会が常任化されているように感じられた。

本会議での議案質疑について、質問者の数や時間が少ないとの説明があり、確認したところ、「本会議の前に、議案の説明会が開催され、そこで議案の説明がなされ事前審査にならない程度の質疑が行われる。」との事であった。

議会ＩＣＴ（タブレット端末）について、印刷経費などの「コスト削減」及び「事務効率化や省力化」を目的に、平成27年９月から導入され、議会が開催する全ての会議でタブレット端末を使用している。ペーパーレス化対象会議の拡大をしている。本会議、予算・決算特別委員会の会議録冊子の議員への配布を廃止した。紙削減の実績として、定例会、常任委員会で約２万枚、会議録配布廃止で約１万６千枚が削減された。

ペーパーレス化導入の中で「執行部作成資料（議案書、予算、決算書など）については、紙資料と併用している。」との説明があった。

秩父市議会として、今後の運営の参考としたい。

視察を終えて（各委員の所感）

【　八戸ポータルミュージアム ｈａｃｃｈｉ　　赤 岩 秀 文　】

八戸市中心市街地にある「八戸ポータルミュージアムｈａｃｃｈｉ」は街の顔、街の入口として平日にもかかわらず賑わいを見せていた。視察を行っての率直な感想は良い意味で雑多感があることである。地上５階建ての建物の中に、観光・文化・歴史・食・産業・人材育成・子育てなど様々な要素が混在している施設でありながら、不思議と調和がとれている。八戸市の風土、地域性なのであろうか、一体感を感じられた。また中心市街地に立地していることから交通の便もよく集客力の一助となっていると考える。

通常、公共的に設置される施設といえば何らかの事業に特化したものや、複合施設であっても、ある程度類似する事業を集約するものが多いと感じていたため、自分の既成概念が崩れた。このような施設を秩父市で設置しようと考える場合、八戸市に負けないくらいの資源は保有している。祭り、文化財、産業（秩父銘仙、セメント産業の歴史）、食の伝統など、これに加え地域の活動拠点、また鉄道が２路線乗り入れていることから地域外からの芸術文化の創造拠点化も考えられる。しかしながらこのような施設は中心市街地に設置することが望ましい、公共交通機関が利用しづらい郊外への設置では十分な効果が得られないのではないかと考える。近年の中心市街地は空き店舗等のリノベーションが進み活気がある街へと変化し続けているため、中心市街地の拠点施設が必ずしも必要とは考えられないが、今後の状況で整備が必要になる時には、「ポータルミュージアムｈａｃｃｈｉ」は大いに参考となる施設であると考える。